

2015年9月28日

SAAJ NEWS RELEASE

IASB 公開草案「財務報告に関する概念フレームワーク」 について意見書を提出

公益社団法人 日本証券アナリスト協会（会長：大場 昭義 東京海上アセットマネジメント株式会社 代表取締役社長）は、2015年5月28日に国際会計基準審議会（以下 IASB）が公表した公開草案（以下 ED）「財務報告に関する概念フレームワーク（以下概念 FW）」について意見書を作成し、9月28日に企業会計基準委員会（以下 ASBJ）へ提出しました。

【意見書のポイント】

- ✓ ED は 2013 年 7 月に公表された討議資料に寄せられた関係者の多様な意見に配慮しており、まだ十分ではないものの、個々の概念をよく整理して記載していると評価している。しかし、最も重要な「純利益」の定義に踏み込まないとした IASB の姿勢には大きな失望を覚えた。
- ✓ ED 7.19 項の「財務業績に関する情報をより効率的かつ効果的に伝達するため、収益及び費用は財務業績の計算書において、次のいずれかに分類される。(a)純損益計算書（これには純損益に係る小計又は合計が含まれる）(b)その他の包括利益（以下 OCI）」という提案に異論はない。勉強会出席者を対象としたアンケート調査でも、66%の回答者が IASB の提案に「同意する」と答えた。
- ✓ ED 7.21 項の「純損益計算書に含められる収益及び費用は、企業の当期の財務業績に関する情報の主要な源泉である。」は利用者の実感に合う記述であり、IASB がこれを明記した点を評価したい。それだけに、「概念 FW」に純損益の定義がないのは非常に残念である。アンケート調査でも、54%の回答者が純損益や OCI（特に純損益）を財務諸表の構成要素として定義すべきだと「思う」と答えた。
- ✓ 我々は、純損益を定義すれば、純損益計算書、OCI の使用などに関する IASB の提案内容がより明確になり、「概念 FW」の完成度が一段と高まると信じている。純利益は税金を含む全ての費用を支払った後で株主に帰属する当期の利益として、利用者、特に投資家にとって極めて重要な指標である。半面、万人の納得する定義を定めるのは難しいかもしれないが、我々は IASB が「利益＝収益－費用」の恒等式から一歩先へ踏み出す勇氣を持ち、純利益の定義という課題に挑戦し続けることを強く願っている。

【添付資料】IASB 公開草案「財務報告に関する概念フレームワーク」について

本件に関するお問い合わせは下記まで

SAAJ 公益社団法人 日本証券アナリスト協会

電話：03-3666-1577

担当：教育第1企画部長 かいます 貝増 眞